

2 自然的状況

1) 気象

(1) 気温、降雨量等

事業実施区域の位置する横須賀市の気象の状況を表 2-2-102、横須賀市の令和 5 年の平均気温及び降水量の推移を図 2-2-76 に示す。また、気象観測地点位置を図 2-2-77 に示す。

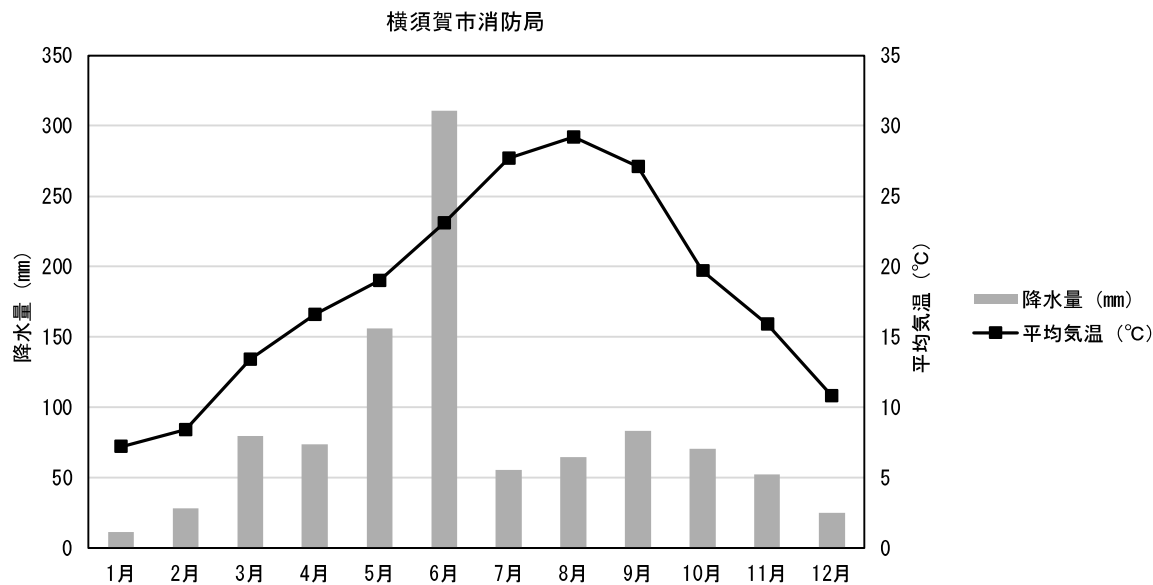
これによると、横須賀市では、令和元年から令和 5 年の 5 年間では、年間平均気温は 17.0～18.9℃、年間降水量は 1,009.5～1,691.5mm で推移している。

また、令和 5 年の月別平均気温は、8 月に最も高く約 29℃であり、1 月に最も低く約 7℃であった。また、月別降水量は、6 月が最も多く、1 月が最も少なくなっていた。

表 2-2-102 気象の状況

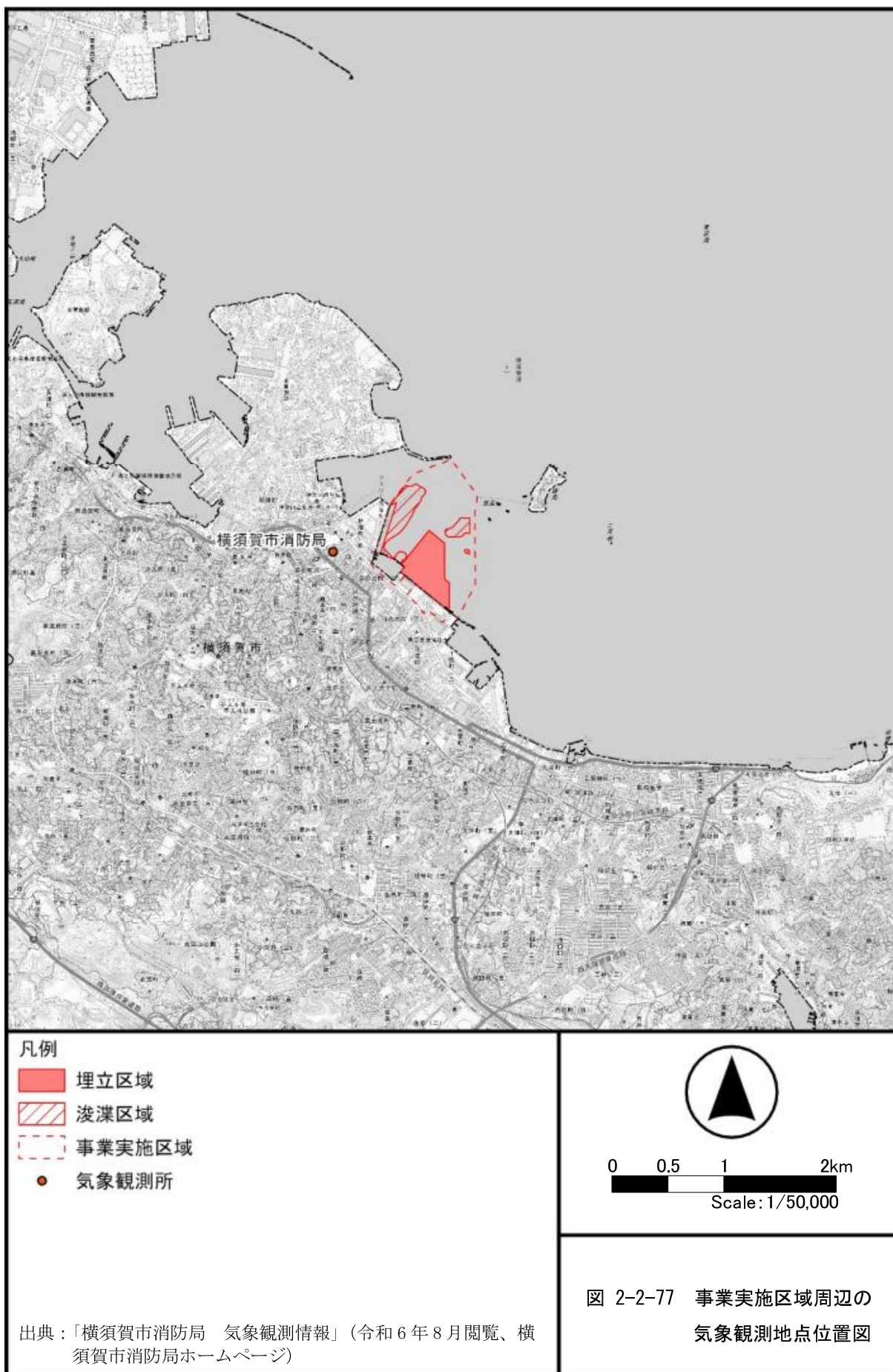
観測地点	年	気温 (℃)			降水量 (mm)	
		平均	最高	最低	総量	最大日量
横須賀市消防局	令和元年	17.0	35.6	0.6	1,389.0	114.5
	令和 2 年	17.1	37.3	0.7	1,491.5	139.0
	令和 3 年	18.9	35.5	0.0	1,691.5	135.0
	令和 4 年	17.2	37.1	0.0	1,186.0	100.5
	令和 5 年	18.2	36.6	-1.7	1,009.5	124.0

出典：「横須賀市消防局 気象観測情報」（令和 6 年 8 月閲覧、横須賀市消防局ホームページ）



出典：「横須賀市消防局 気象観測情報」（令和 6 年 8 月閲覧、横須賀市消防局ホームページ）

図 2-2-76 令和 5 年の平均及び降水量の推移



(2) 風向・風速

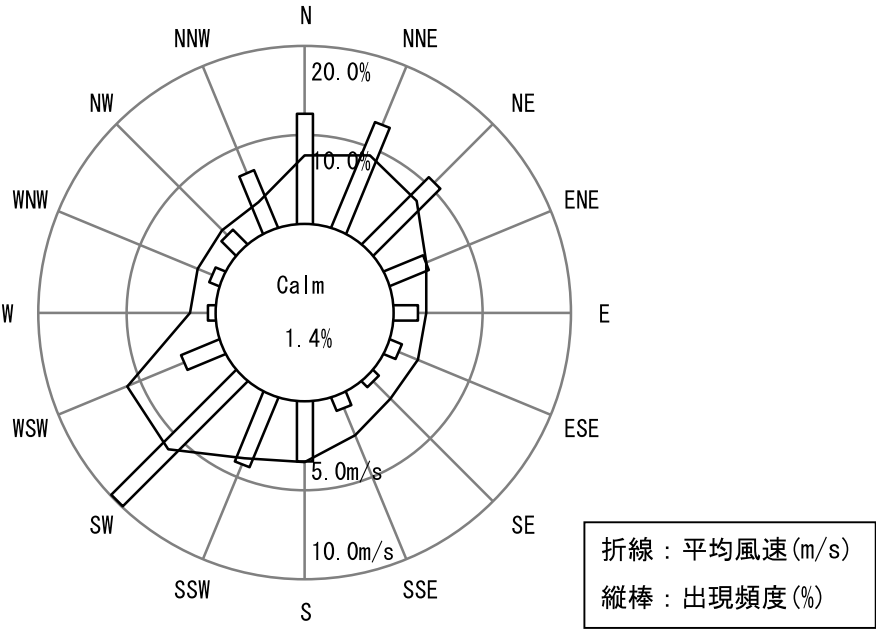
事業実施区域の位置する横須賀市の令和5年における風向・風速の状況を表2-2-103、図2-2-78に示す。

これによると、年間を通じた卓越風向は南西、平均風速は3.9m/sであった。

表 2-2-103 月別風向・風速（令和5年度）

観測地点	横須賀市消防局	
月	最多風向	平均風速 (m/s)
1月	北	3.1
2月	北	4.6
3月	北北東	4
4月	南西	5
5月	南西	4.3
6月	南西	3.3
7月	南西	4.4
8月	南西	3.8
9月	南西	4
10月	北	3.2
11月	南西	4.1
12月	北	3.3
年間	南西	3.9

出典：「横須賀市消防局 気象観測情報」（令和6年8月閲覧、横須賀市消防局ホームページ）



注：Calm（静穏）は風速0.3m/s以下を示す。
なお、本図は横須賀市消防局気象観測情報
（<https://yokosuka.tenki.ne.jp/>）を加工して作成

図 2-2-78 横須賀市消防局における風配図（令和5年度）

2) 水象
(1) 潮汐

横須賀港の潮位図は図 2-2-79、驗潮所位置は図 2-2-80 に示すとおりである。

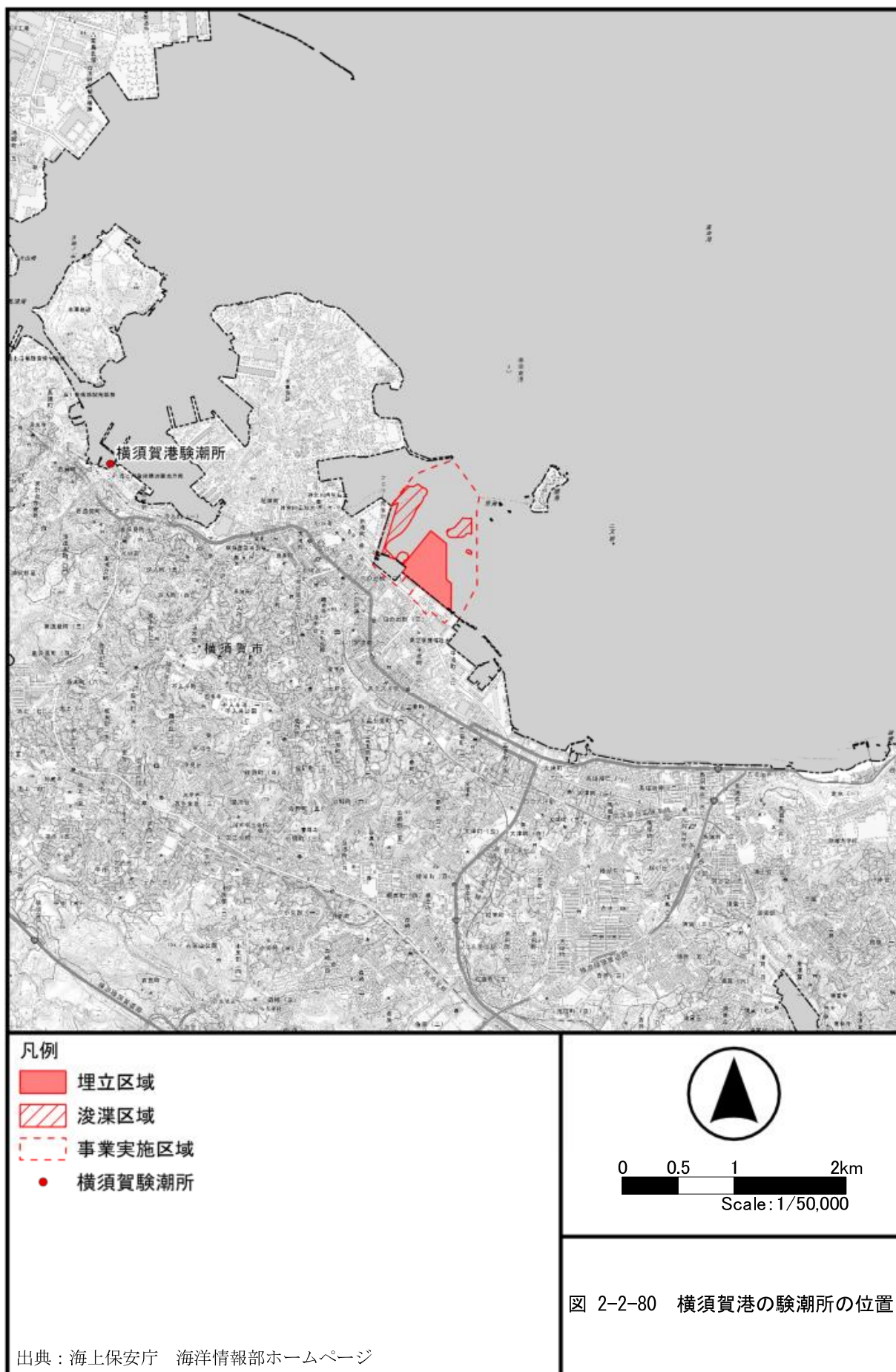


検潮期間：2010.1.1～2019.12.31

検潮場所：横須賀港驗潮所（横須賀市西逸見1丁目無地番）

出典：横須賀港便覧 2023

図 2-2-79 横須賀港の潮位図

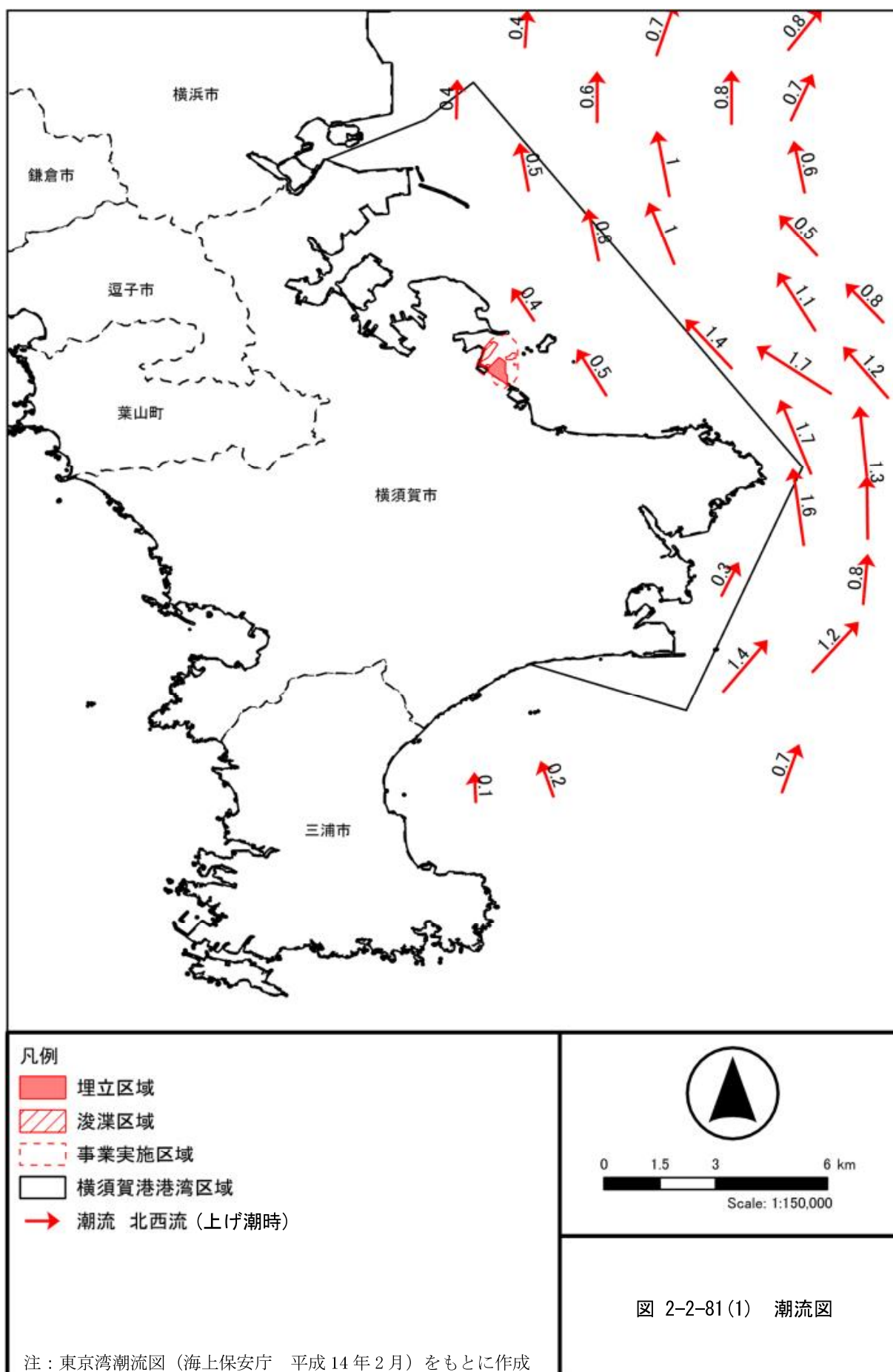


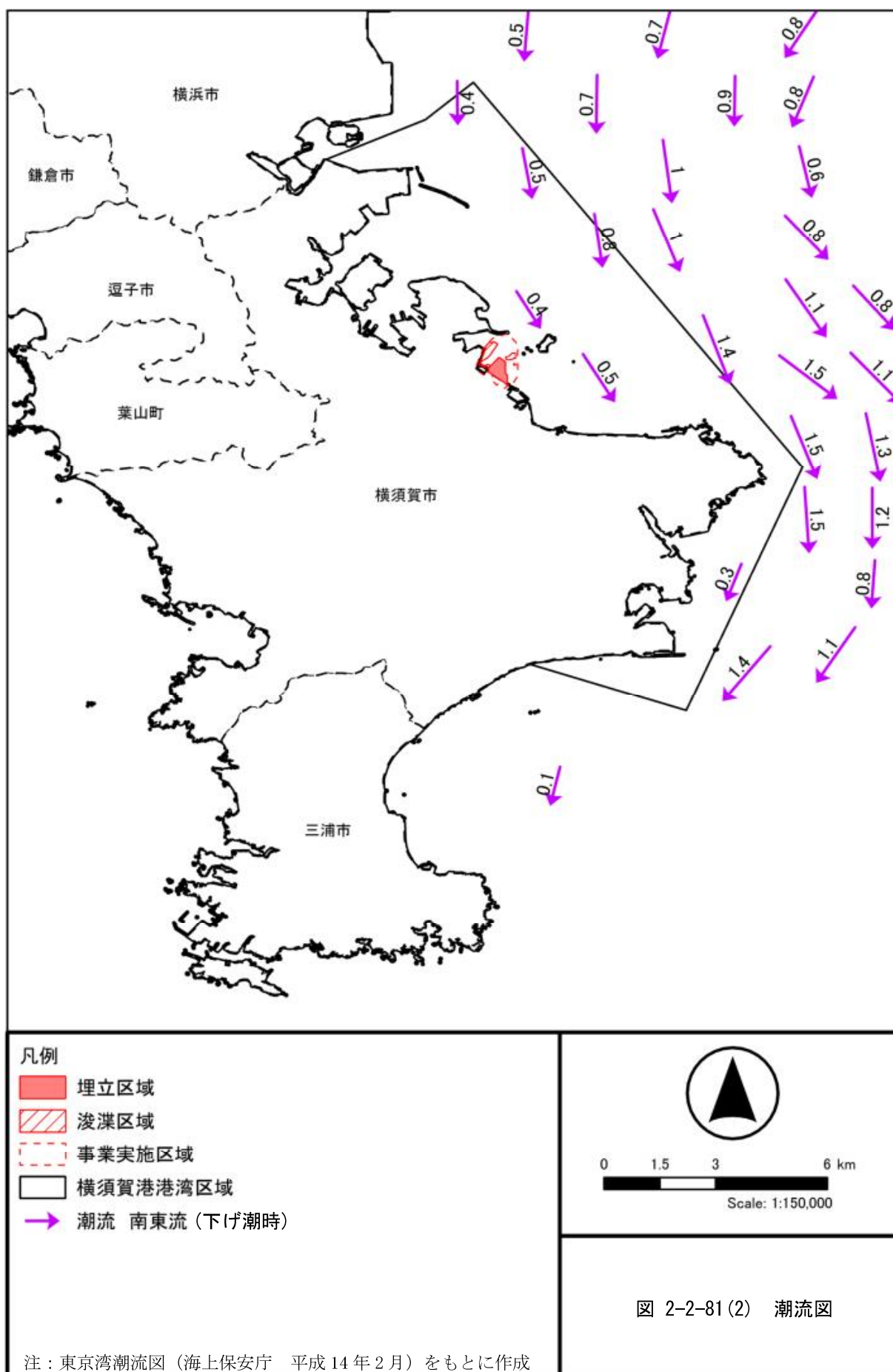
(2) 潮流

ア. 潮流図

事業実施区域周囲における潮流は図 2-2-81 に示すとおりである。

海上保安庁作成の潮流図によると、事業実施区域付近の潮流（猿島沖）は、上げ潮最強時に北北西流が 0.5 ノット（約 25cm/s）、下げ潮最強時に南南東流が 0.5 ノット（約 25cm/s）である。





イ. 流向・流速

潮流調査の概要は表 2-2-104 に、調査地点は図 2-2-82 に、平均流は図 2-2-83 に、平均大潮期の流況は図 2-2-84、図 2-2-85 に示すとおりである。

事業実施区域近傍の St. 1、St. 3 についてみると、平均流（15 日間観測の平均値）は、夏季で 1.6cm/s～9.1cm/s、冬季で 1.2cm/s～10.7cm/s であり、冬季の St. 1（猿島沖）の上層で南東流 10.7cm/s が最も大きく、次いで夏季の St. 1（猿島沖）の上層で南東流 9.1cm/s であった。

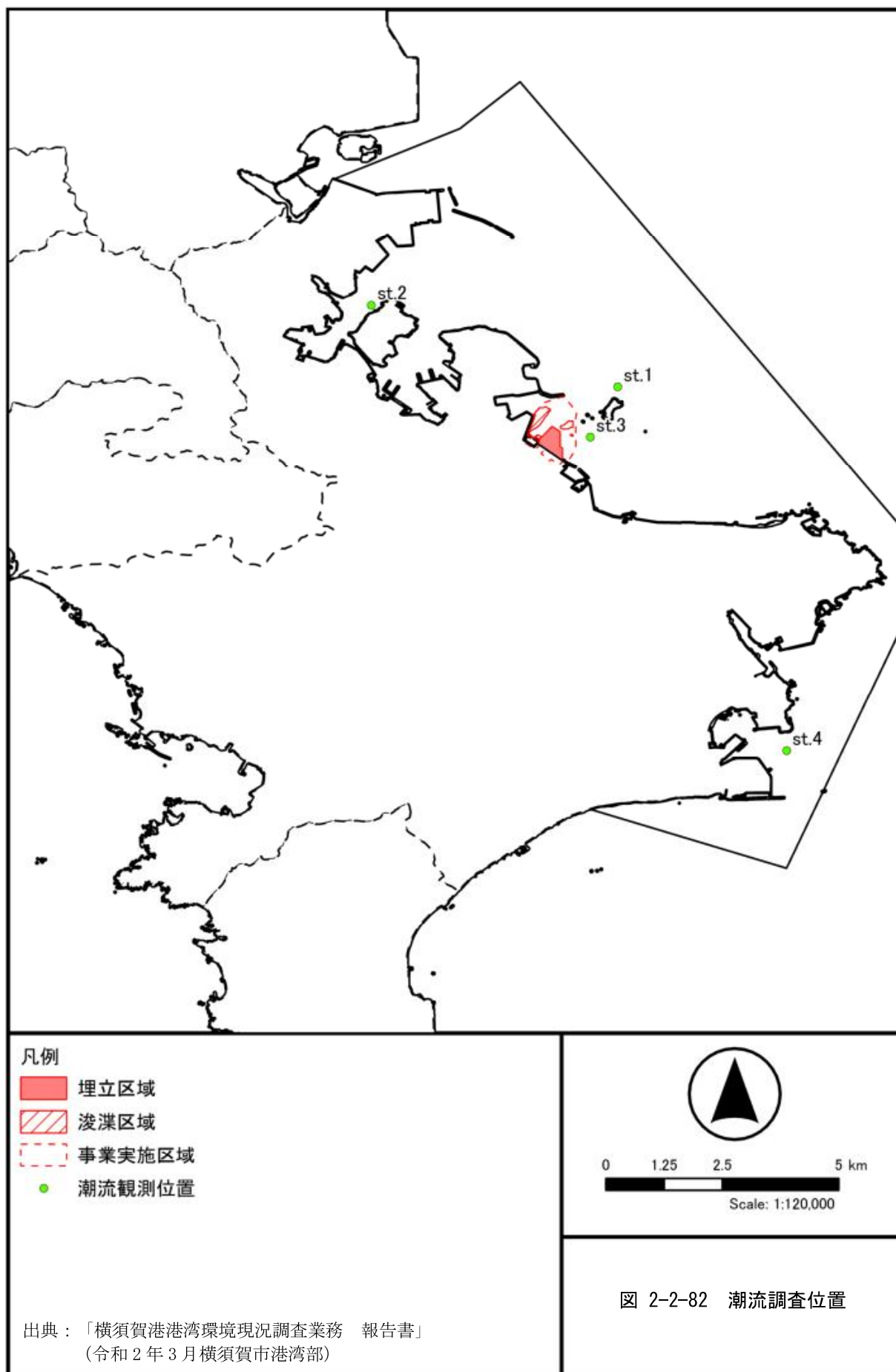
同様に、事業実施区域近傍の St. 1、3 における平均大潮期の流向・流速は、夏季においては、上層では下げ潮最強時に南東～南南東流となり、14.3～25.6cm/s となる。下層でも下げ潮時に流速が大きくなるが、高潮時～高潮後 1 時に東北東流で 6.1～6.7cm/s となる。冬季においては、上層では St. 1 では下げ潮時に南東流 33.2cm/s と最も大きくなり、St. 3 では上げ潮時の西北西流 10.3cm/s が最大となる。下層では、下げ潮時に最も大きくなり東南東～北東の流れが 14.8～20.7cm/s となる。

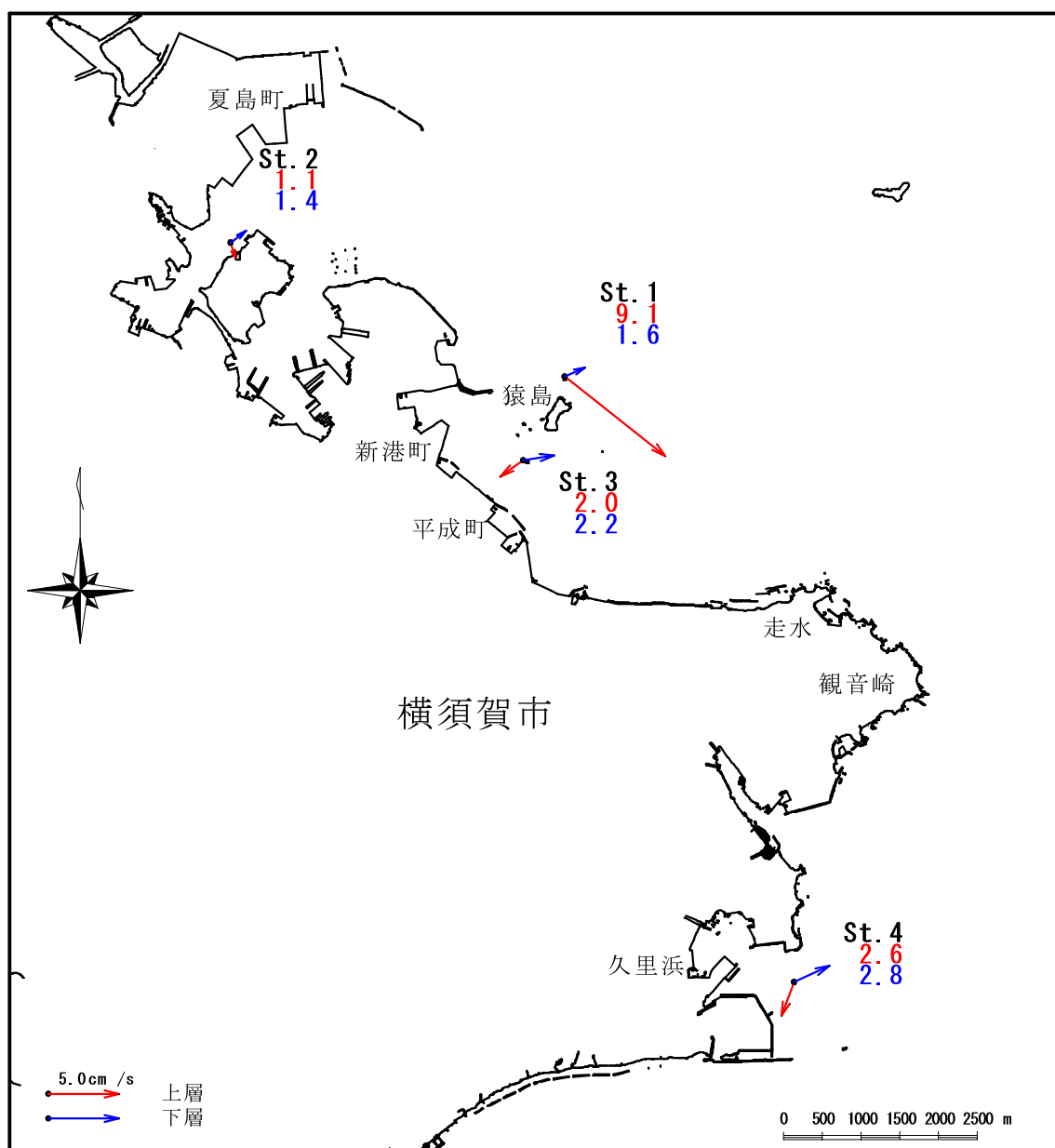
いずれの季節においても、猿島沖 St. 1 の上層の流速が大きく、猿島よりも岸側となる St. 3 では沖合よりも流速は小さくなる。

表 2-2-104 潮流調査概要

調査項目	流況（15 昼夜連続観測）
調査期間	夏季 設置期間： 2019 年 8 月 6 日～2019 年 8 月 22 日 冬季 設置期間： 2020 年 1 月 14 日～2020 年 1 月 31 日
調査地点	4 地点（図 2-2-82 参照）
観測層	上層（海面下 2m）、下層（海底上 2m）
調査方法	メモリー式電磁流速計を設置し、15 昼夜連続で流向及び流速を 10 分間隔で 1 分間測定（1 秒間隔で 60 個のデータを取得）。

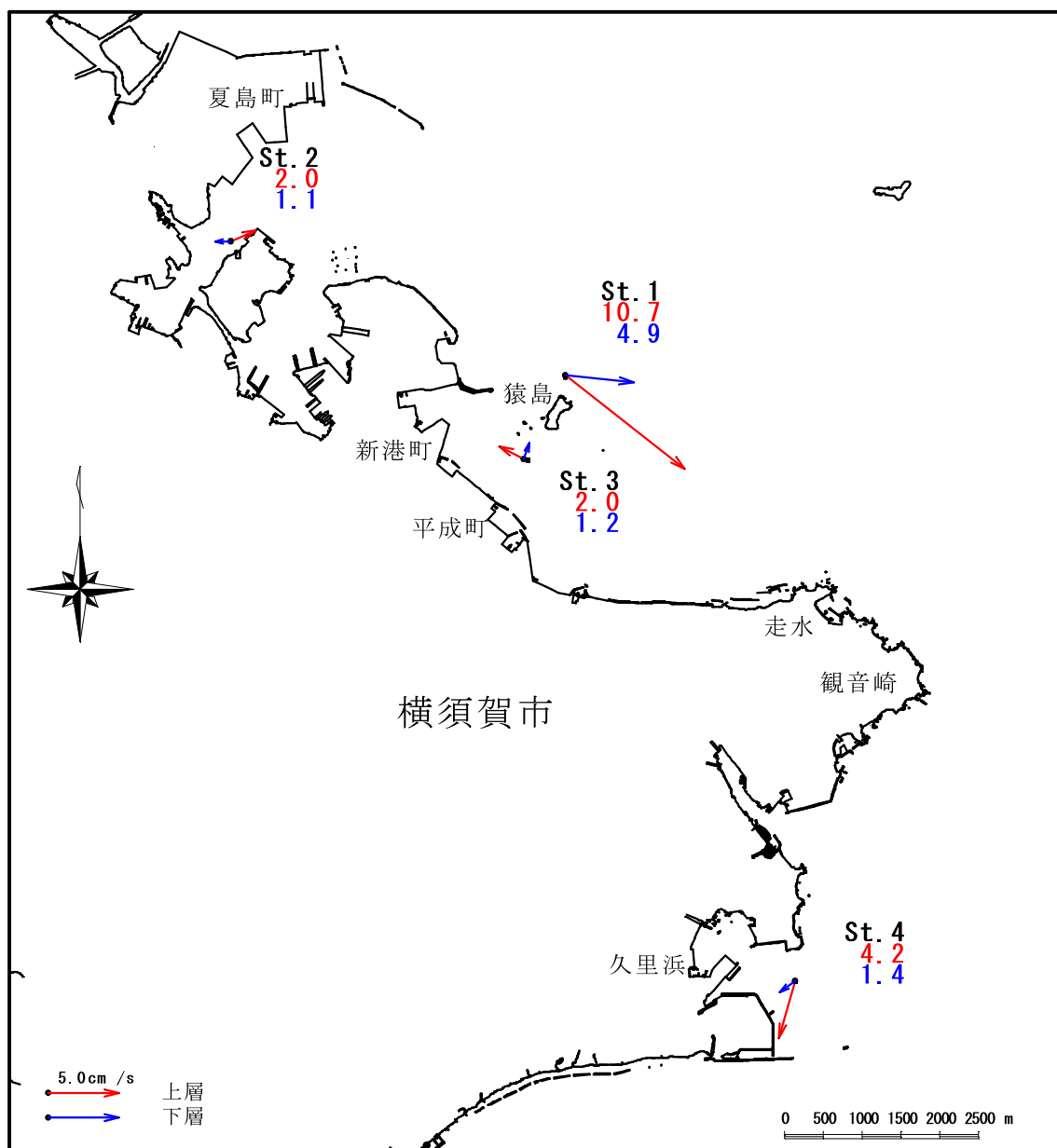
注：「横須賀港港湾環境現況調査業務 報告書」（令和 2 年 3 月、横須賀市港湾部）をもとに作成





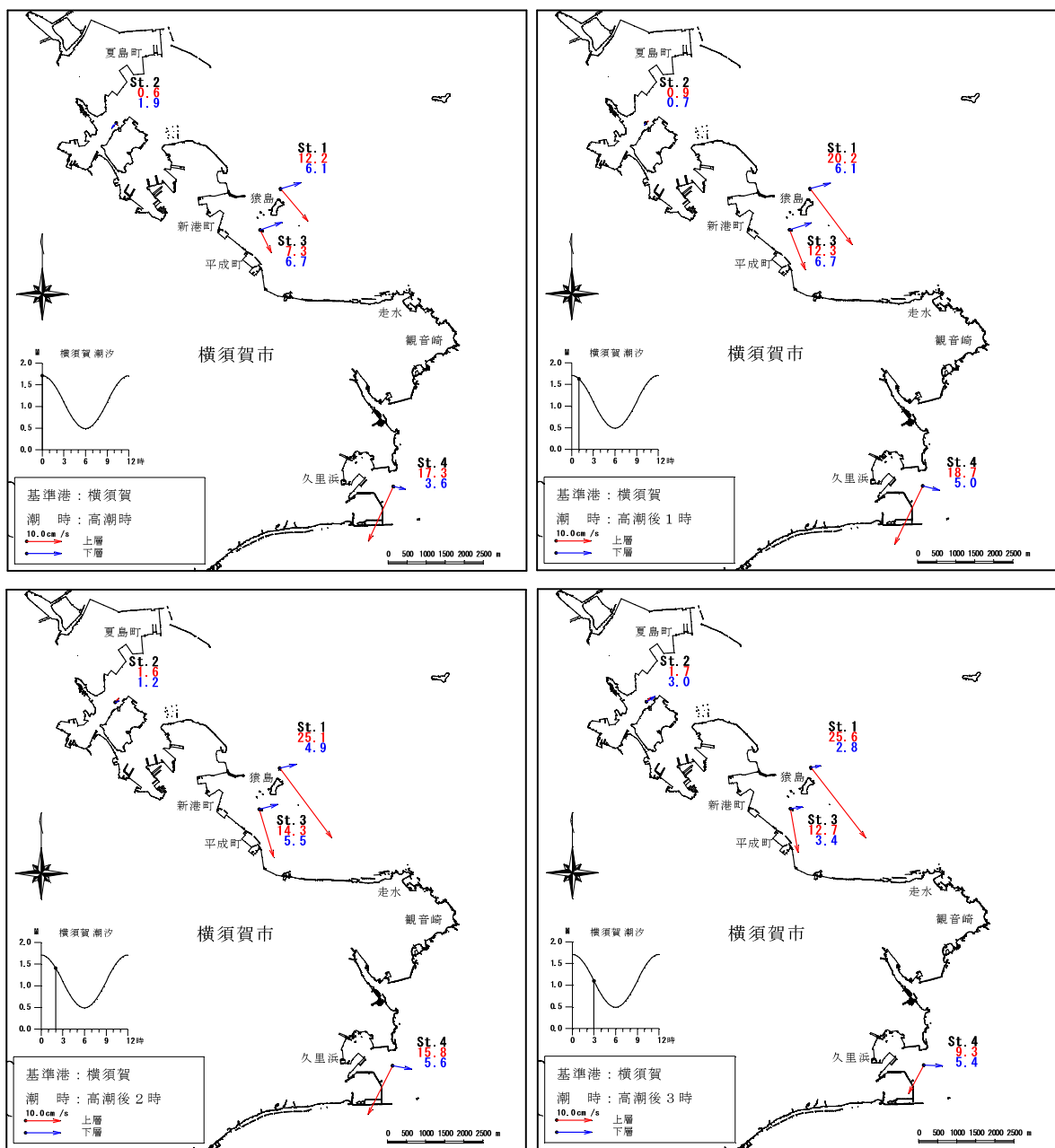
出典：「横須賀港港湾環境現況調査業務 報告書」（令和2年3月、横須賀市港湾部）

図 2-2-83(1) 潮流調査結果（平均流、夏季）



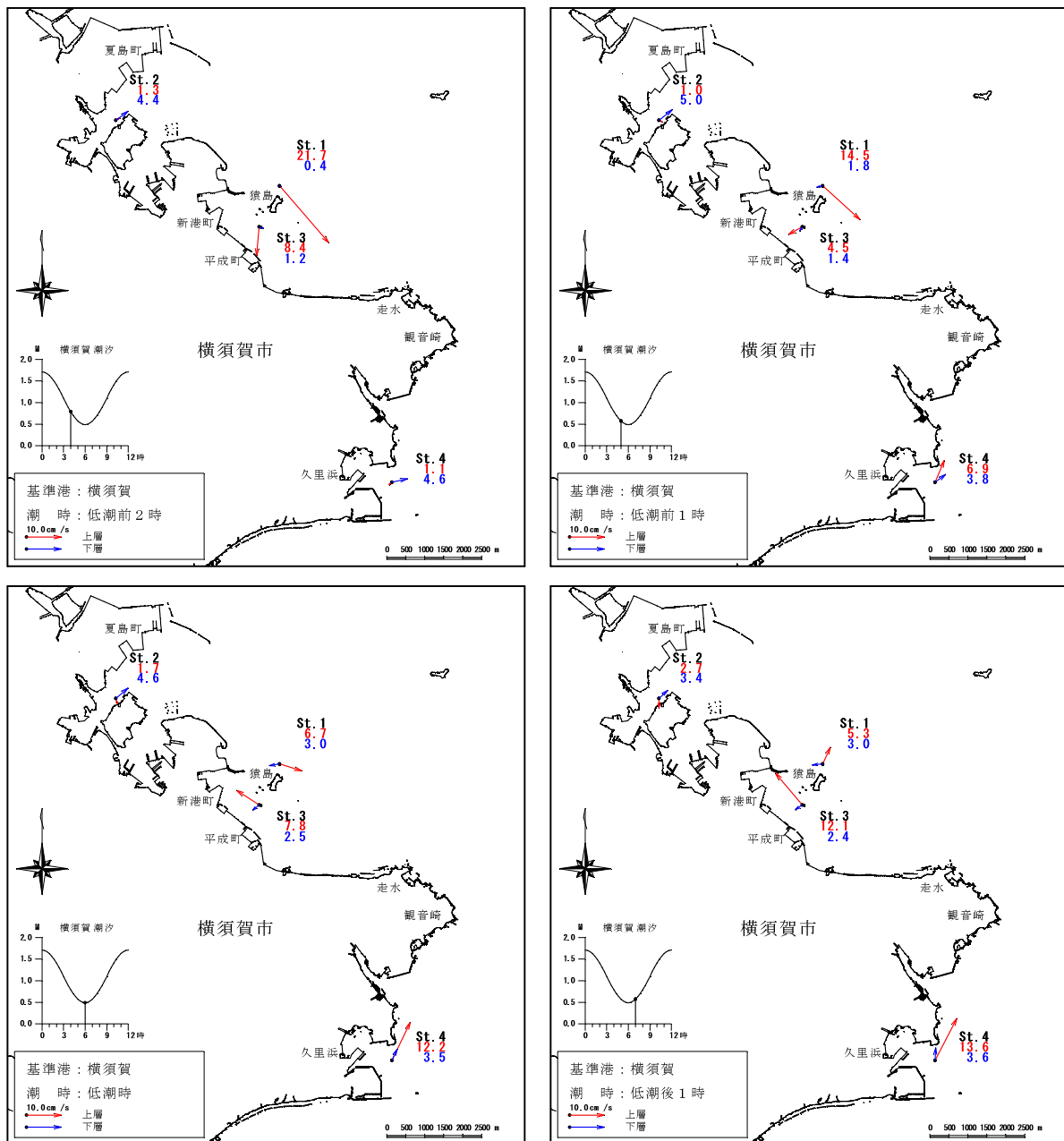
出典：「横須賀港湾環境現況調査業務 報告書」（令和 2 年 3 月、横須賀市港湾部）

図 2-2-83(2) 潮流調査結果（平均流、冬季）



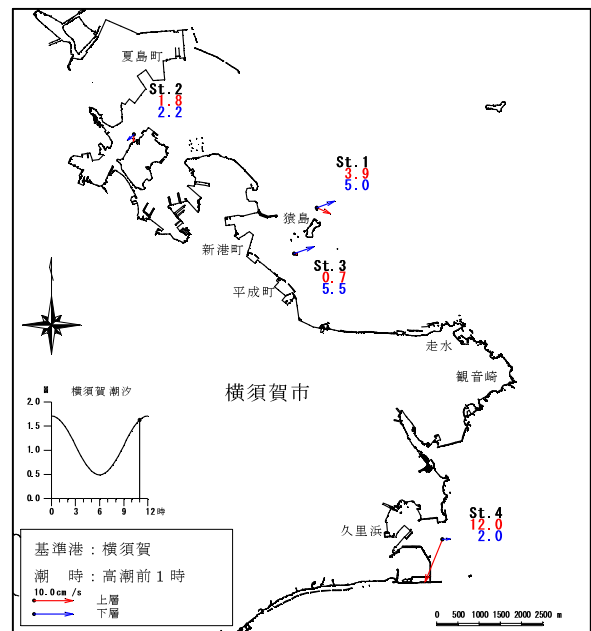
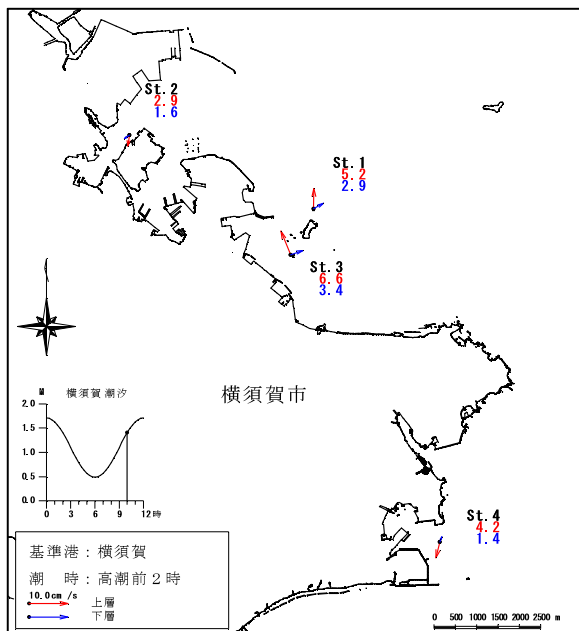
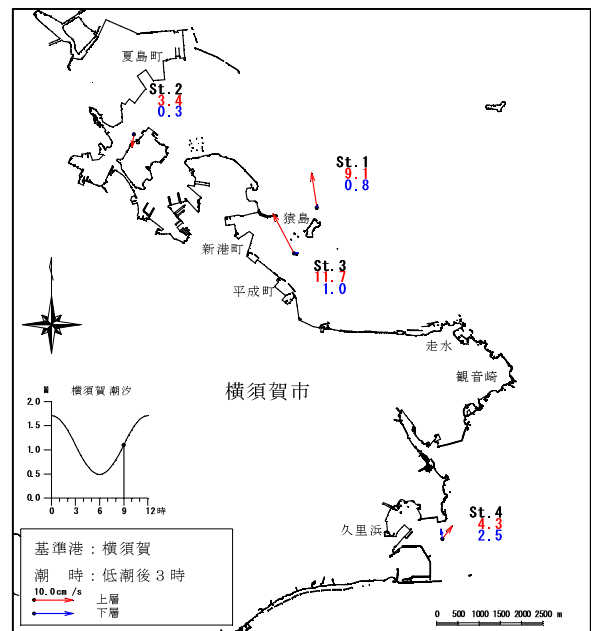
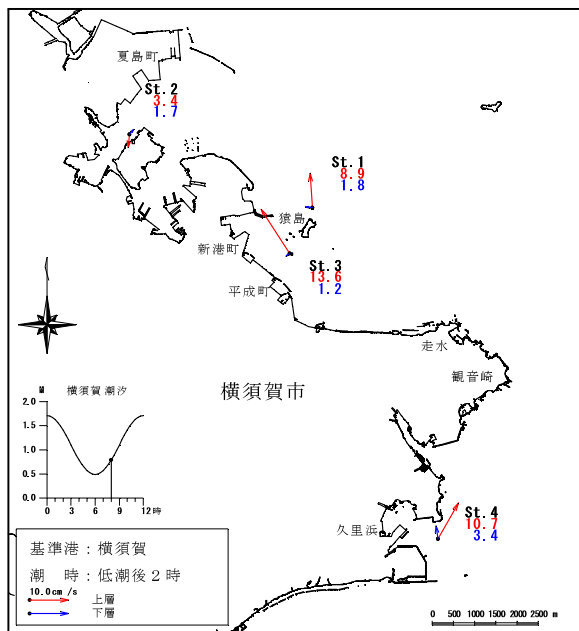
出典:「横須賀港湾環境現況調査業務 報告書」(令和 2 年 3 月、横須賀市港湾部)

図 2-2-84(1) 潮流調査結果(平均大潮期、夏季)



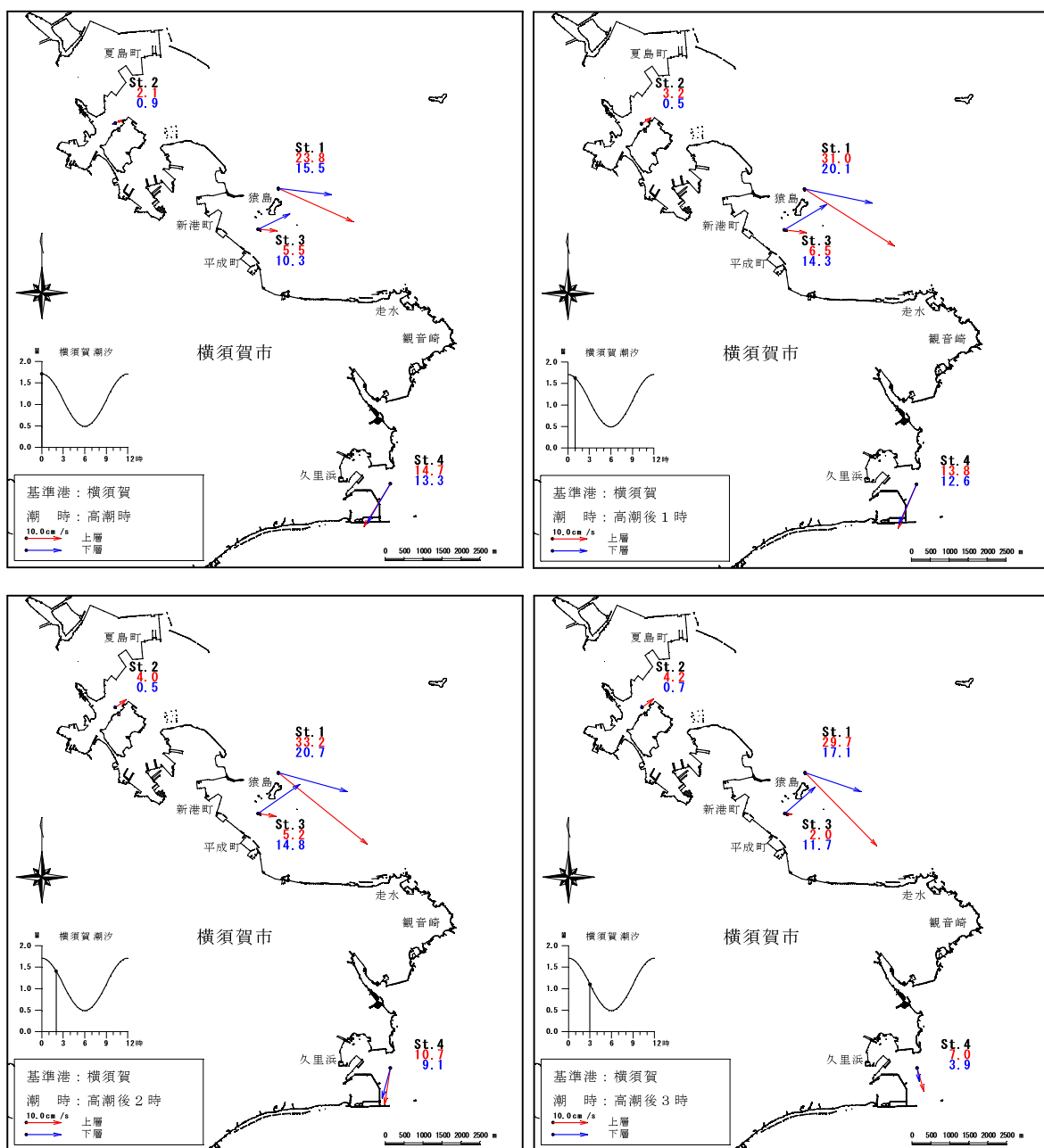
出典：「横須賀港湾環境現況調査業務 報告書」（令和 2 年 3 月、横須賀市港湾部）

図 2-2-84(2) 潮流調査結果（平均大潮期、夏季）



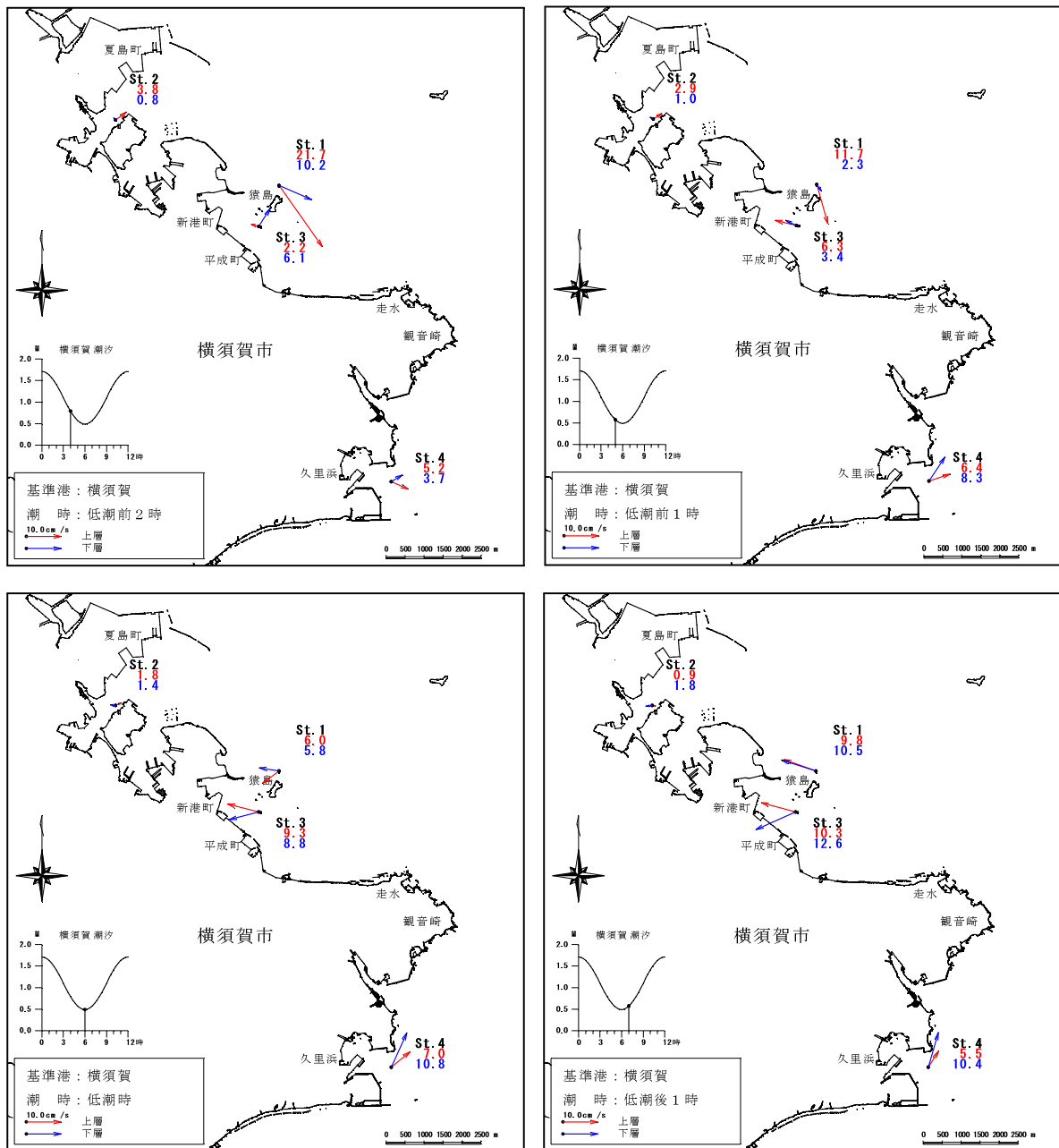
出典：「横須賀港湾環境現況調査業務 報告書」（令和 2 年 3 月、横須賀市港湾部）

図 2-2-84(3) 潮流調査結果（平均大潮期、夏季）



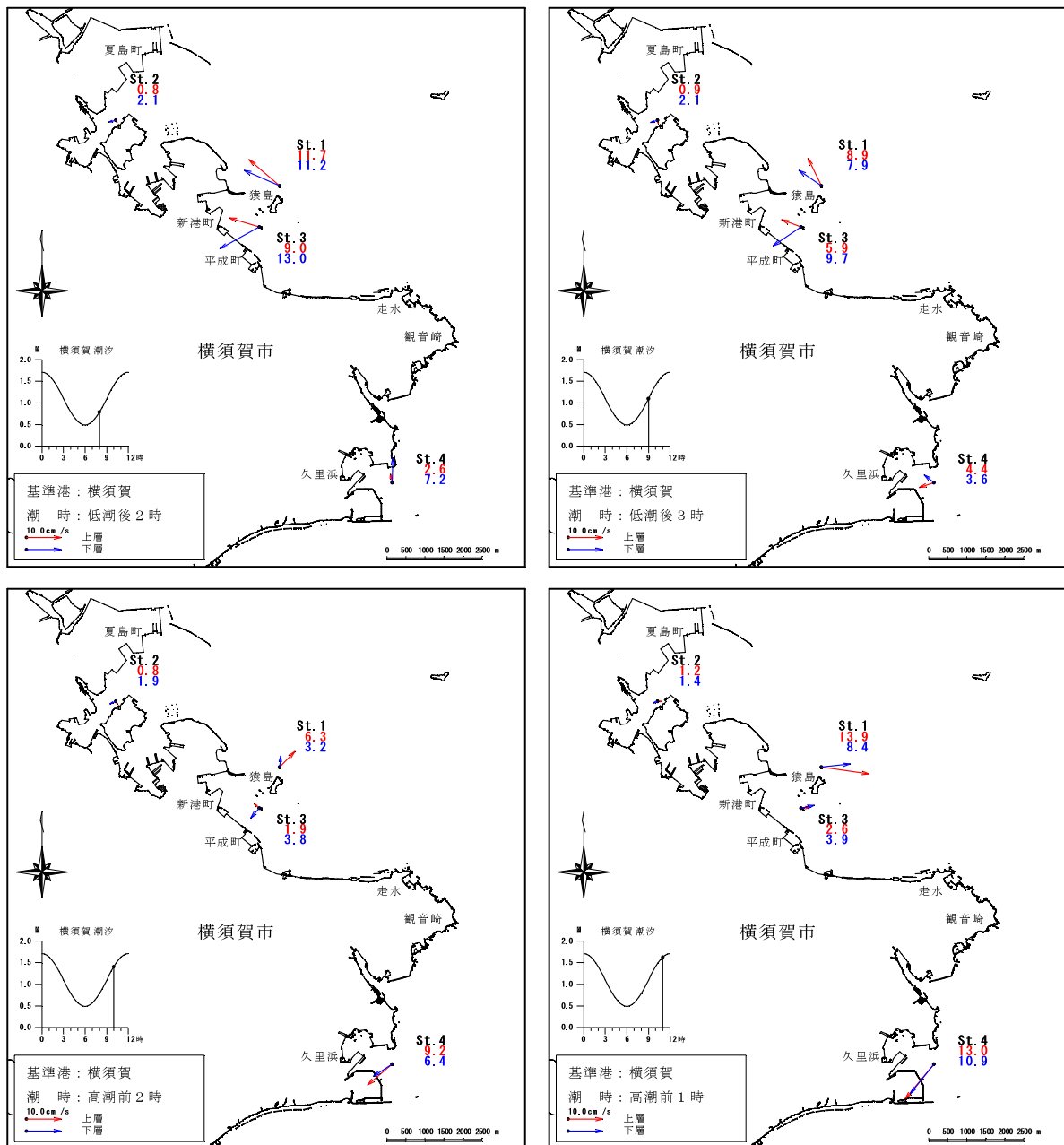
出典：「横須賀港湾環境現況調査業務 報告書」（令和2年3月、横須賀市港湾部）

図 2-2-85(1) 潮流調査結果（平均大潮期、冬季）



出典：「横須賀港港湾環境現況調査業務 報告書」（令和 2 年 3 月、横須賀市港湾部）

図 2-2-85(2) 潮流調査結果（平均大潮期、冬季）



出典：「横須賀港湾環境現況調査業務 報告書」(令和 2 年 3 月、横須賀市港湾部)

図 2-2-85 (3) 潮流調査結果 (平均大潮期、冬季)

(3) 波浪

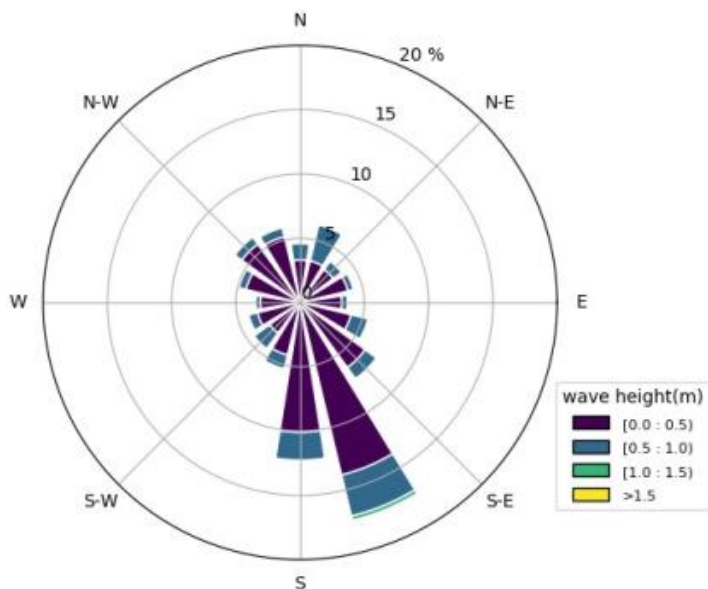
事業実施区域周辺海域では、リアルタイムナウファス観測地点のうち、第二海堡で波浪観測が実施されている。直近 10 年間の観測結果より有義波を対象に算定した周期階級別波高出現頻度表は表 2-2-105、波向別波高出現頻度図は図 2-2-86 に、波浪観測位置は図 2-2-87 に示すとおりである。

これより、波高としては 0.5m 未満が最も多く出現し、秋季としては 3.0～4.0s が最も多かった。波向は南南東からの出現頻度が高く、横須賀港に向かう東寄りの波浪出現頻度は少なかった。

表 2-2-105 周期階級別波高出現頻度表（2013～2022 年、第二海堡）

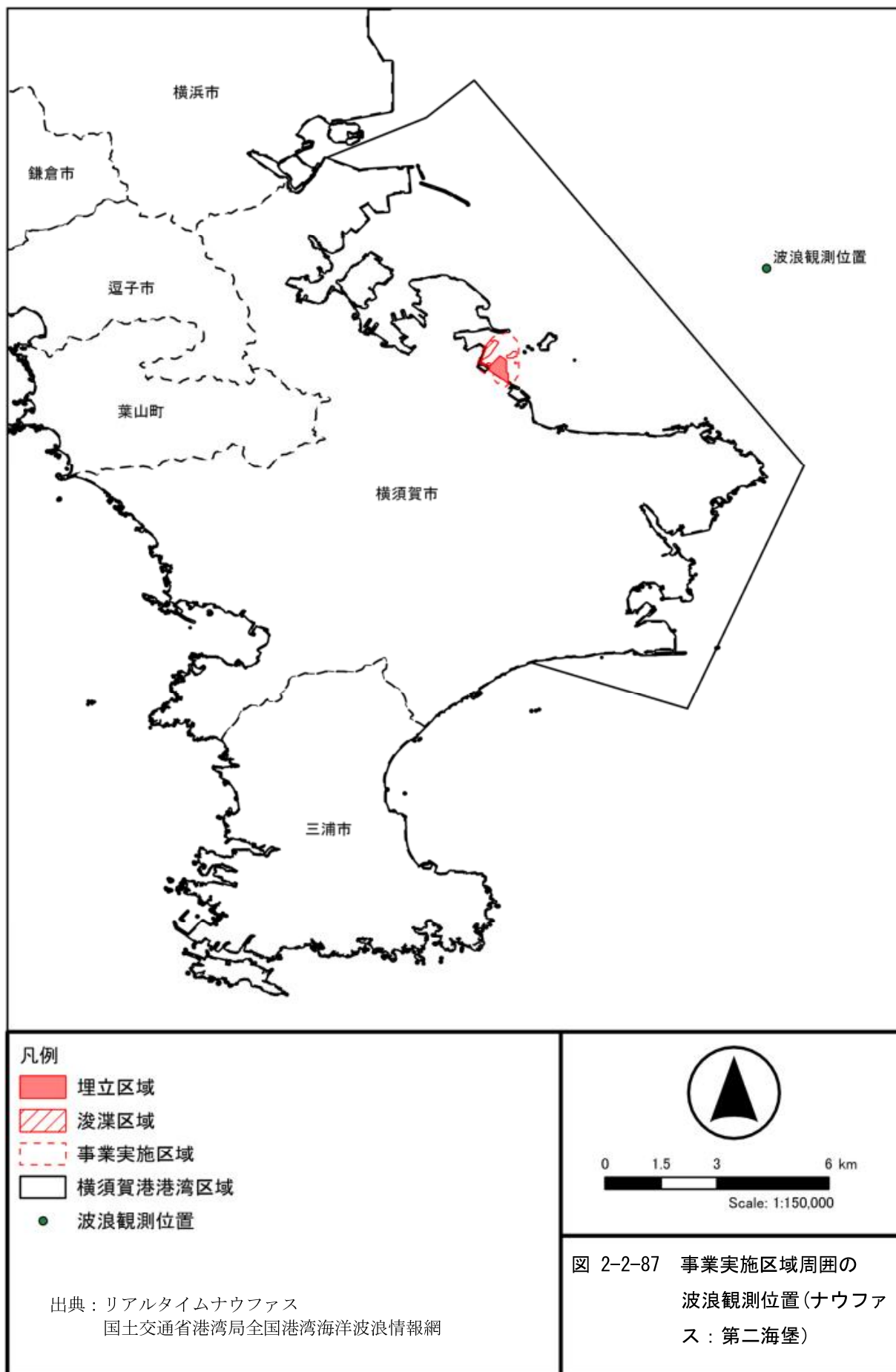
周期階級(s) 波高階級(m)	1.0	1.0 ～ 2.0	2.0 ～ 3.0	3.0 ～ 4.0	4.0 ～ 5.0	5.0 ～ 6.0	6.0 ～ 7.0	7.0 ～ 8.0	8.0 ～ 9.0	9.0 ～ 10.0	10.0 ～	合計
～ 0.5	0	0	2,437	25,865	4,775	682	183	75	29	10	0	34,056
0.5 ～ 1.0	0	0	193	6,404	871	219	65	20	9	4	0	7,785
1.0 ～ 1.5	0	0	0	106	150	58	17	8	2	1	0	342
1.5 ～ 2.0	0	0	0	0	9	15	11	0	1	0	0	36
2.0 ～ 2.5	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2
2.5 ～ 3.0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
3.0 ～ 3.5	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
3.5 ～ 4.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4.0 ～	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	2,630	32,375	5,805	974	278	104	42	15	0	42,223

出典：リアルタイムナウファス 国土交通省港湾局全国港湾海洋波浪情報網 第二海堡 に基づいて作成



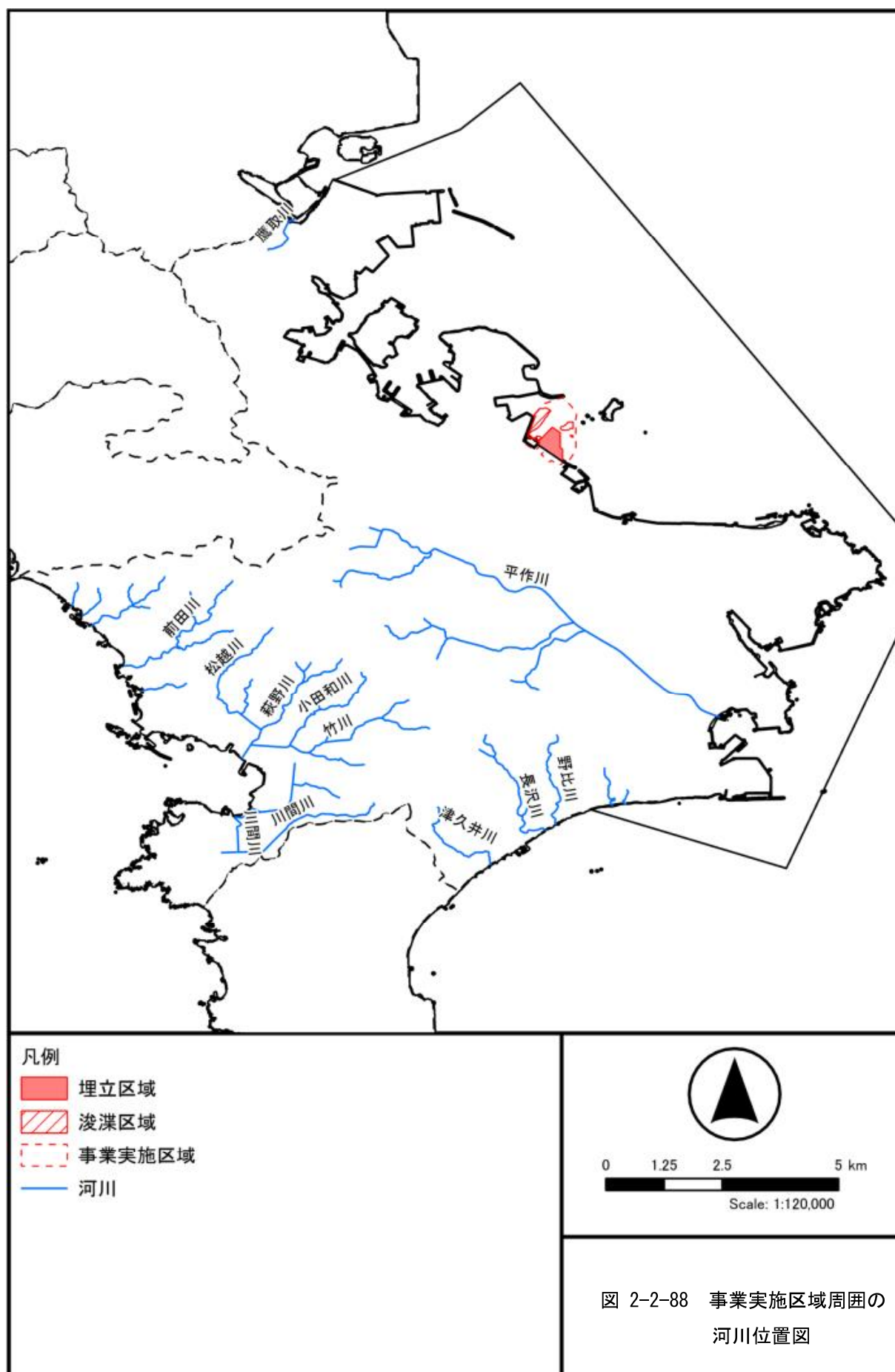
出典：リアルタイムナウファス 国土交通省港湾局全国港湾海洋波浪情報網 第二海堡 に基づいて作成

図 2-2-86 事業実施区域周辺の波向別波浪階級別出現頻度



(4) 河川

事業実施区域周辺の河川は図 2-2-88 に示すとおりであり、事業実施区域への河川流入は存在しない。



3) 地象

(1) 地形

事業実施区域周辺の地形分類図を図 2-2-89 に示す。

これによると、事業実施区域周辺は人工地形（旧水面上の埋立地、盛土地）である。

また、事業実施区域周辺の重要な地形の分布状況を表 2-2-106 及び図 2-2-90 に示す。

これによると、事業実施区域から離れた場所に重要な地形「三浦半島の海成段丘」が存在する。

そのほか、事業実施区域周辺の地盤高を図 2-2-91 に、地形表現図を図 2-2-92 に示す。

これによると、事業実施区域周辺に急傾斜は存在しない。

表 2-2-106 事業実施区域周辺の重要な地形

カテゴリー	地点名	地形の特性	選定基準	ランク
Ⅳ	三浦半島の海成段丘	海成段丘	③	C

注 1：カテゴリー

Ⅰ 変動地形 Ⅱ 火山地形 Ⅲ 河川のつくる地形 Ⅳ 機構を反映した地形
Ⅴ 海岸地形 Ⅵ 地質を反映した地形 Ⅶ その他の重要な地形

注 2：選定基準

- ① 日本の地形を代表する典型的かつ希少、貴重な地形
- ② ①に準じ、地形学の教育上重要な地形もしくは地形学の研究の進展に伴って新たに注目した方がよいと考えられる地形
- ③ 多数存在するが、なかでも典型的な形態を示し、保存することが望ましい地形
- ④ 動物や植物の生育地として重要な地形

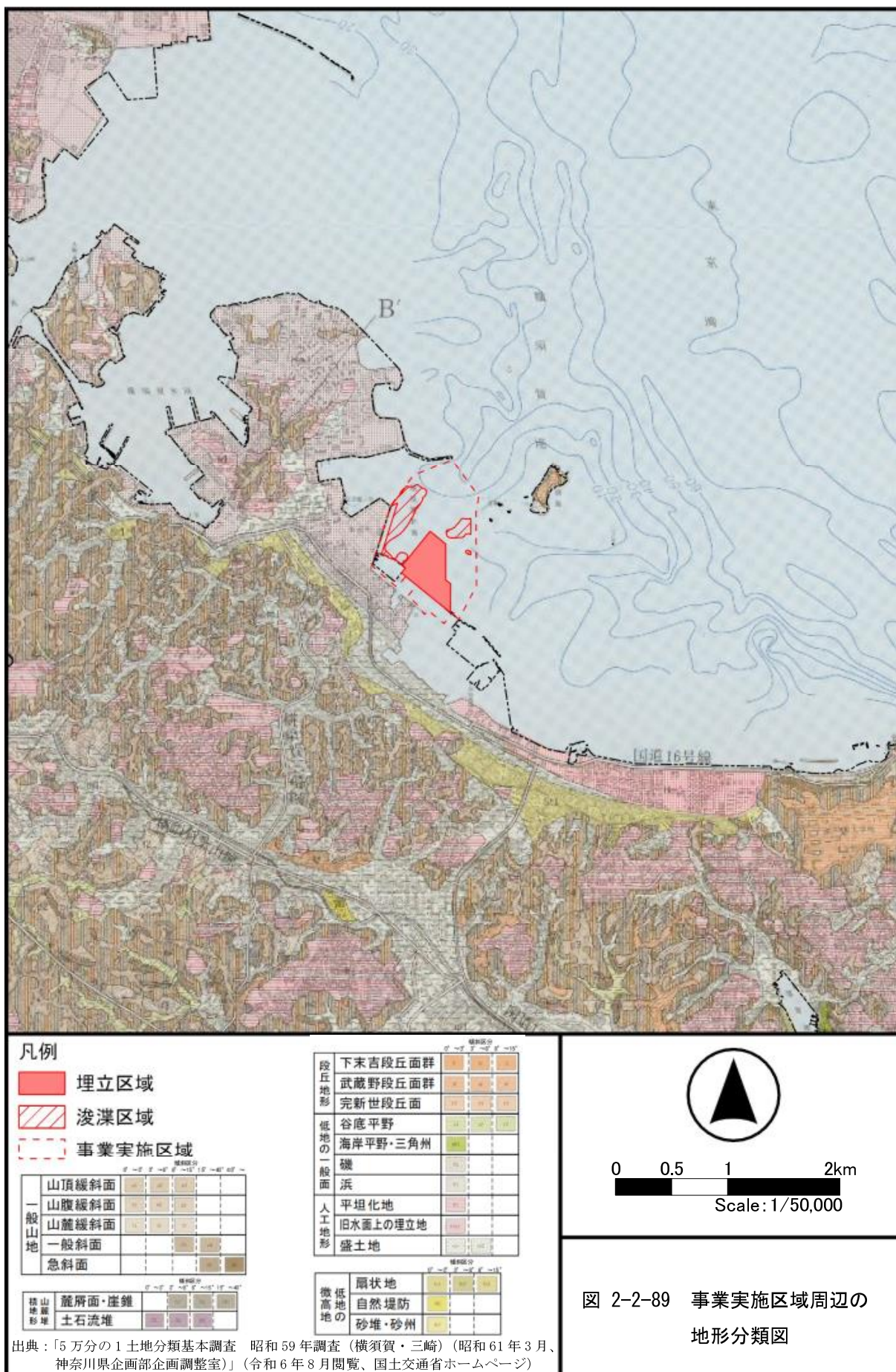
注 3：ランク

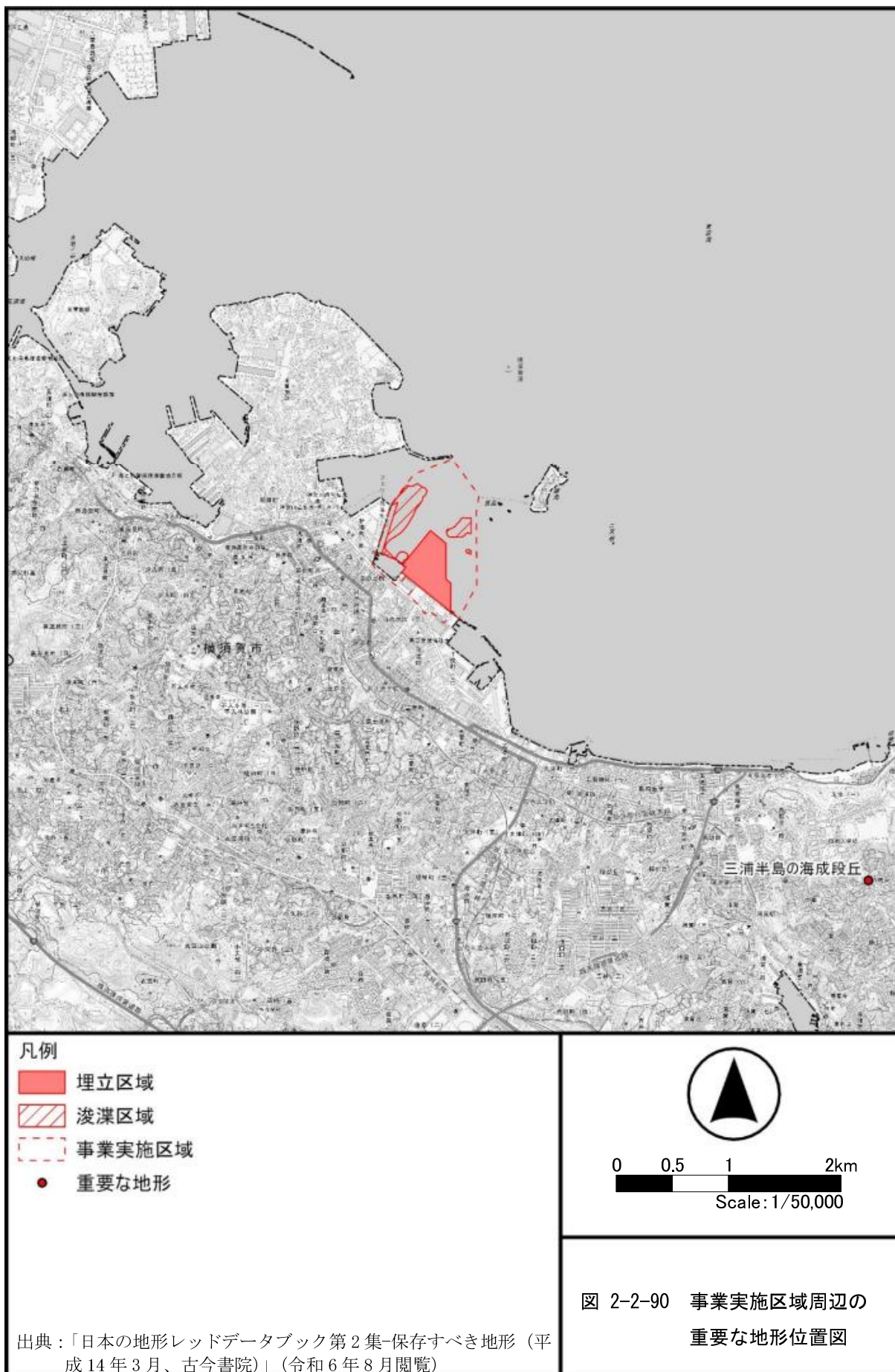
- A：現在の保存状況が良く、今後もその継続が求められる地形
- B：現時点で低強度の破壊を受けている地形。今後、破壊が継続されれば、消滅が危惧される。
- C：現在著しく破壊されつつある地形。大規模開発計画などで破壊が危惧される地形。このランクに属する地形は現状のままでは消滅すると考えられるので、最も緊急な保全が要求される。

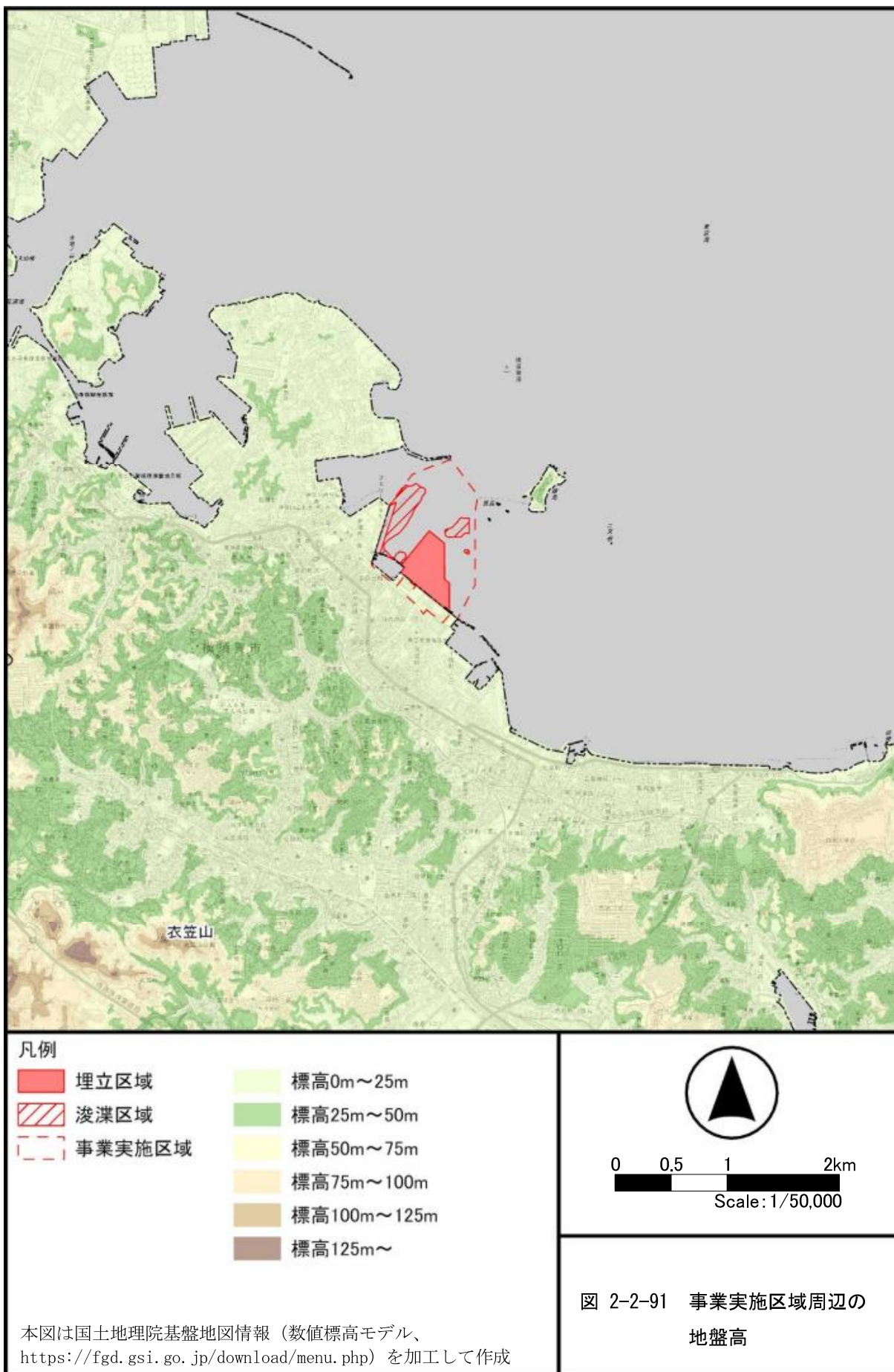
D：重要な地形でありながら、すでに破壊され、現存しない地形

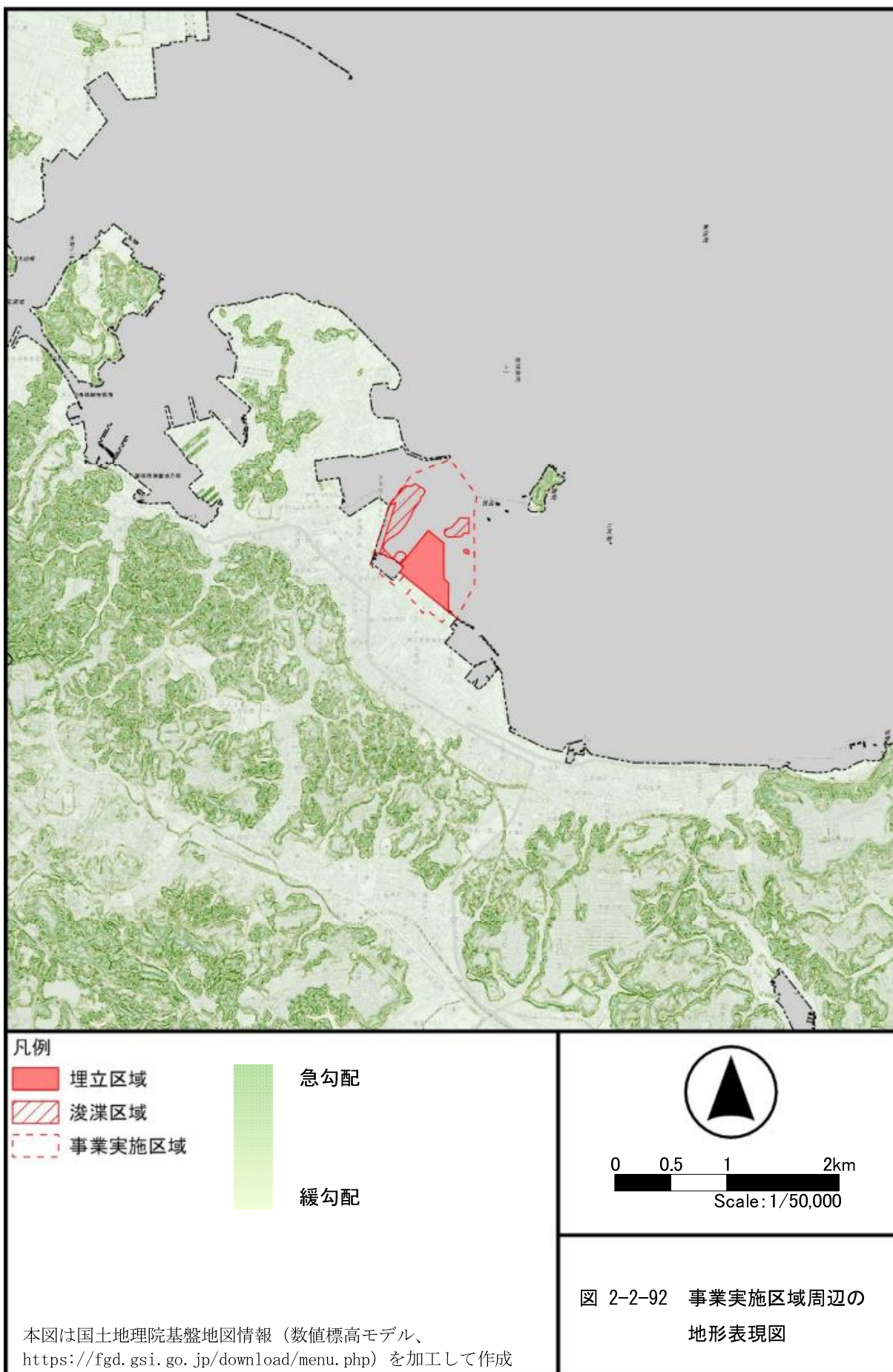
出典 1：「日本の地形レッドデータブック第 1 集-危機にある地形（平成 12 年 12 月、古今書院）」（令和 6 年 8 月閲覧）

出典 2：「日本の地形レッドデータブック第 2 集-保存すべき地形（平成 14 年 3 月、古今書院）」（令和 6 年 8 月閲覧）









(2) 地質

事業実施区域周辺の表層地質の状況を図 2-2-93 に示す。
これによると、事業実施区域周辺は海岸の埋め立て土である。

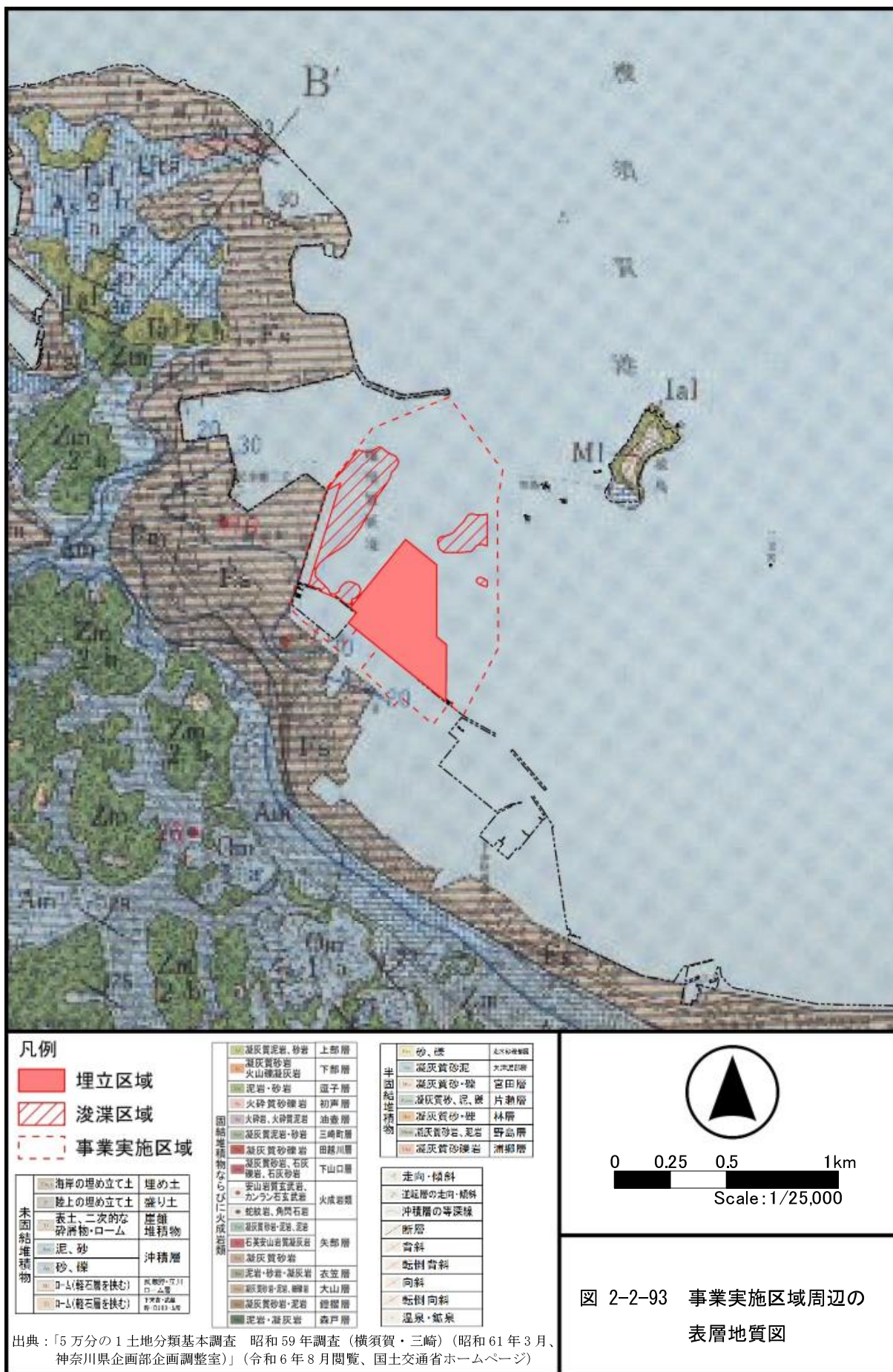
(3) 活断層

活断層の位置を図 2-2-94 に、活断層の状況を表 2-2-107 に示す。
「神奈川県活断層（令和 6 年 5 月、くらし安全防災局防災部危機管理防災課）」によると、事業実施区域周辺には三浦半島断層群（主部）が確認されており、活動度は A～B 級が該当する。

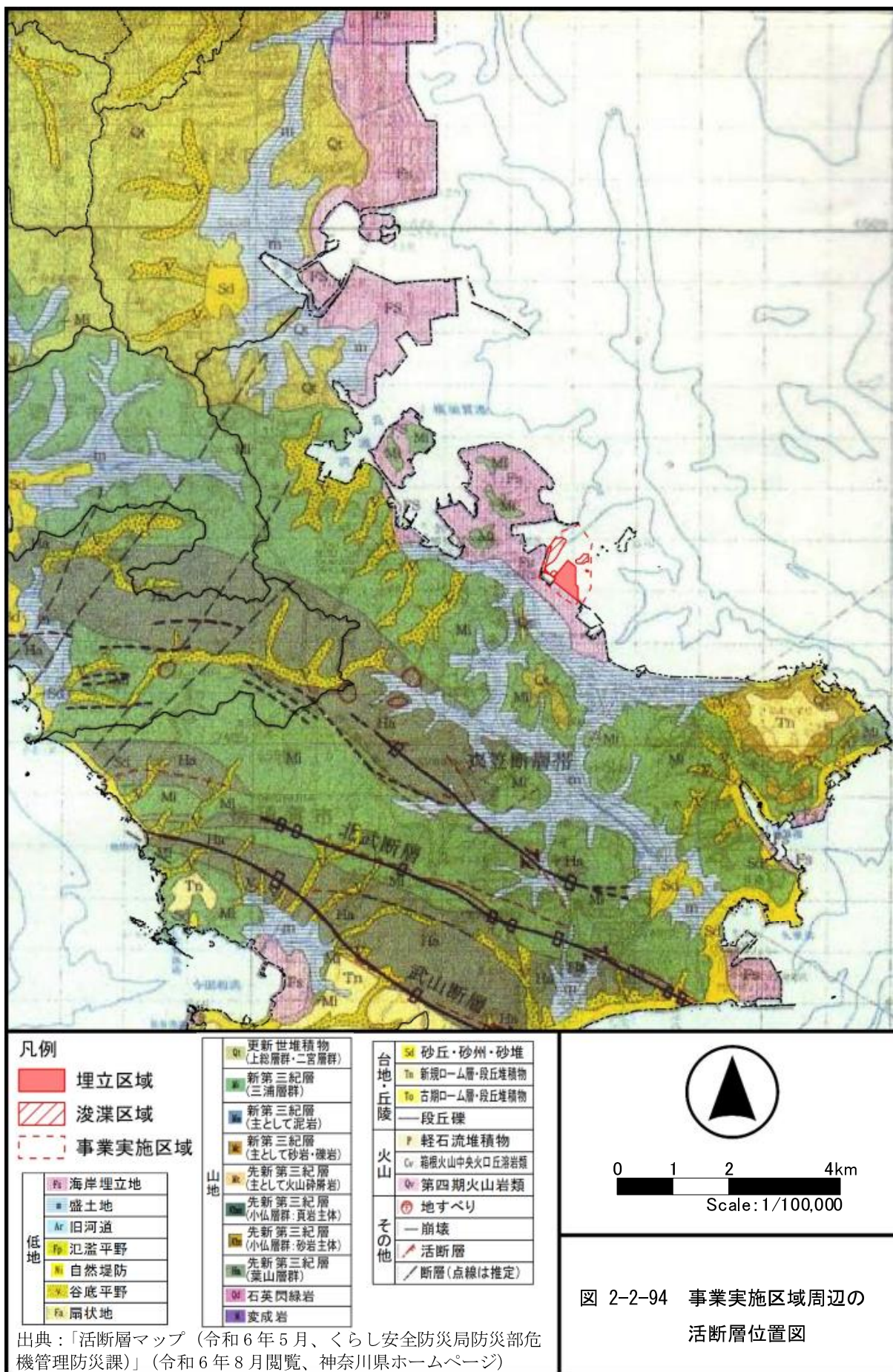
表 2-2-107 活断層の状況

断層名	長さ	活動度	最新活動時期	平均活動間隔	評価の概要
三浦半島断層群（主部）	20km 衣笠断層：13km 北武断層：12.5km	A～B	500～1000 年前	1000～16000 年前	次の活動は今後数百年以内に起こる可能性が高い。

注：活動度とは、活断層の活動の程度を長期間でのずれの累積量から判断し、長期間のずれ量をその期間の年数で割った値（平均変位速度）で表す。
活動度 A 級：1000 年あたり 1m 以上 10m 未満
活動度 B 級：1000 年あたり 0.1m 以上 1m 未満
活動度 C 級：1000 年あたり 0.1m 未満
出典：「神奈川県活断層（令和 6 年 5 月、くらし安全防災局防災部危機管理防災課）」（令和 6 年 8 月閲覧、神奈川県ホームページ）



出典：「5万分の1土地分類基本調査 昭和59年調査（横須賀・三崎）（昭和61年3月、神奈川県企画部企画調整室）」（令和6年8月閲覧、国土交通省ホームページ）



出典:「活断層マップ (令和 6 年 5 月、くらし安全防災局防災部危機管理防災課)」(令和 6 年 8 月閲覧、神奈川県ホームページ)